

秋田県における森林体験イベントの現状と今後への展望

秋田県立大学 森林科学研究室 ○品川 朋仁, 蒔田 明史

1. はじめに

近年、自然環境への関心の高まりに伴い、自然に関する講演会や、自然観察会、体験イベントなどが秋田県を含め多くの地域で盛んに実施されている。

秋田の森林づくり検討委員会では、秋田県の豊かな森林環境を保全し、森林の持つ公益的機能の維持・増進を図るために、森林整備の方策、県民理解の促進方策及び費用負担のあり方等について検討を行った。そして検討委員会は、森林の持つ公益的機能の恩恵を受けている県民による県民参加の森林づくりを提案した。また県民の意見を反映させることを目的として県民アンケートが実施された。このアンケート結果によると、県民の約70%が森林を守り育てるためのボランティア活動へ参加したいとする意思を持っていたが、ボランティア経験者は2.5%に留まっていた。このことは関心は高いが行動に結びついていない現状を示していると言える。

そこで、本研究では県民に森林内に入る機会を提供し、実際の作業を通して森林に関する県民理解の向上を図ると考えられる、登山やキャンプ、植樹ボランティア、林業体験、自然観察会、自然物を使ったクラフトなどのイベントを森林体験イベントと呼び、これらのイベントに着目して研究を行った。目的は(1)1年間に県内で実施されている森林体験イベントの全体像を把握し、(2)著者自らができるだけ多くのイベントに参加して、参加者アンケートを行い、参加者は何を期待して参加したのか、今後どのようなイベントに参加したいかを明らかにし、新規参加者の増加とリピーターの行動発展のための提言を行うことである。

2. 調査方法

(1) 森林体験イベントの全体像の把握

1年間の森林体験イベントを把握するために、2007年度の新聞や広報、各種団体のホームページなどから森林に関わるイベントを抽出し、イベント名、主催団体、活動場所、参加者数等を分かる範囲で調べ、実施内容で分類を行った。さらに主催団体に対し、イベント開催の動機と内容、対象者、スタッフ数、団体の問題等についてアンケートを行った。

(2) 森林体験イベント参加者へのアンケート調査

2008年7月～10月に秋田県全域で実施された森林体験イベント25件に参加し、各イベントでランダムに選んだ参加者に対し、属性・満足度等を選択式、山に行けない理由・何に期待して参加したか・感想等を記述式としたアンケート調査を行った。

3. 結果

(1) 森林体験イベントの全体像

2007年度の著者が抽出できた森林体験イベントは299件であった。それらは登山やキャンプなど野外体験(34%)、植樹・林業ボランティア(23%)、自然観察会(20%)などに分類された。

イベントの参加者数は2~1400人の規模で実施されており、50人以下のイベントが76%を占めた(図1)。植樹ボランティアでは100人以上になる大規模なイベントも開催されていた。

主催団体の団体区分は市民団体32.1%、地方公共団体29.6%、拠点施設23.5%、企業14.8%となった(図2)。

イベントの対象者について、大人対象、制限なし、親子対象、子供対象と分類すると、野外体験、植樹・林業ボランティア、自然観察会では各イベントのうちおよそ4割が大人対象に開催されていた(図3)。野外体験以外の、植樹・林業ボランティア、自然観察会では全イベントのうち、4割以上が対象者を指定しなかった。クラフトに関しては、大人対象は3%であり、子供から誰もが出来るイベントであると考えられた。野外体験は制限なしのイベントは18%で最も低く、対象者を絞ったイベントであるということができた。

2) 参加者アンケート

参加者アンケートの回答者総数は559人で、60代以上が全体の42%占める一方で、20代は3.6%、30代は8.1%で、若年から壮年層の参加が少なかった(図4)。30代以下が山に行けない理由として、子供が小さい、機会がない等の回答があった。

イベントの情報源は、主催団体からの案内が40%以上、知人の紹介15%、新聞14%であり、ホームページは2.3%だった。初めて参加した人(新規参加者)に限った場合、知人の紹介が最も多かった(図5)。

いずれのイベントにおいても、参加者の満足度は『まあ満足』あるいは『非常に満足』と回答した人が95%であった。

参加したイベントの種類に関わらず、今後参加したいイベントは自然観察会や野外体験という回答が多かった(図6)。クラフトでは新規参加者の61.5%が今後もクラフトに参加したいと回答したが、リピーターでは23.5%だった。

参加者がイベントに何を期待して参加したかについては、自然観察会では知識の充実、野外体験では山や紅葉などを見たい・体験したい、植樹・林業ボランティアでは、森林保全や社会貢献など役に立ちたい・仲間との交流がしたいという回答が多かった(図7)。

4. 考察

県内では年間300件程度のイベントが開催されており、主催団体についても市民団体と地方公共団体がそれぞれ3割前後となったので、県民が自主的に市民団体となり森林体験イベントを活発に行っていると考えられた。イベントの対象者や参加者数、

参加者の期待などがそれぞれのイベントで異なっているおり、様々なタイプの異なるイベントが実施されていることは、参加者の選択肢が増えることから、意義のあることだと考えられる。参加者の満足度は高く、今後もイベントに参加する意識も高かったことから、参加者に森林について興味を抱かせ、森林に意識を高める面でイベントは成功していると推察される。

参加者はイベントに参加して十分な満足を感じ、また複数回参加することで主催団体からのイベント開催情報を得やすくなり、さらにイベントに参加しやすくなるという好循環が起こっている様子がうかがえる。新規参加者は知人の紹介を受けて参加することが多かったことから、新規参加者の獲得には、リピーターによる勧誘が有効だと推察される。若年から壮年層の参加促進には、親子参加や短時間の企画の工夫が必要であると考えられる。

クラフトでは、新規参加者とリピーターで今後参加したいイベントの割合に差が出た。クラフトはリピーターを生みにくいものの、森林に関心を持つきっかけとなり、タイプの異なるイベントへの導入的役割を果たしていることが示唆された。今後、異なるタイプのイベント同士の相互交流が促進されることにより、情報提供者としてのリピーターの役割が強化され、参加者は活動の幅を広げられ、森林への関心を高められると考えられる。

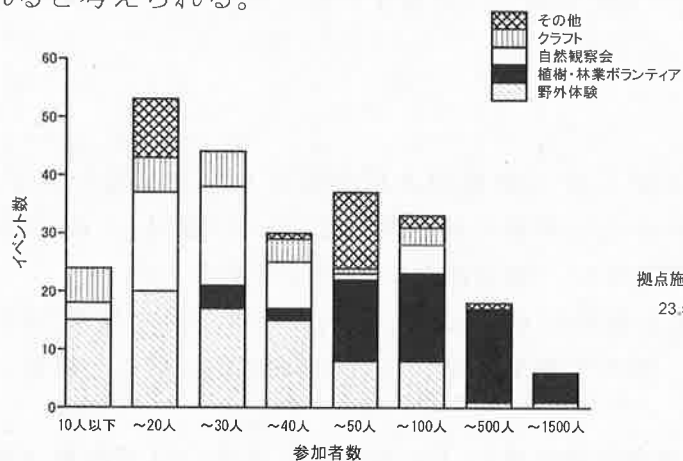


図 1. 2007 年度の森林体験イベント分類と参加者人数の規模

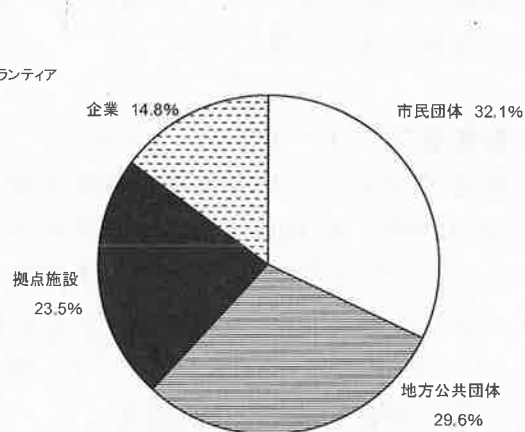


図 2. 主催団体の分類

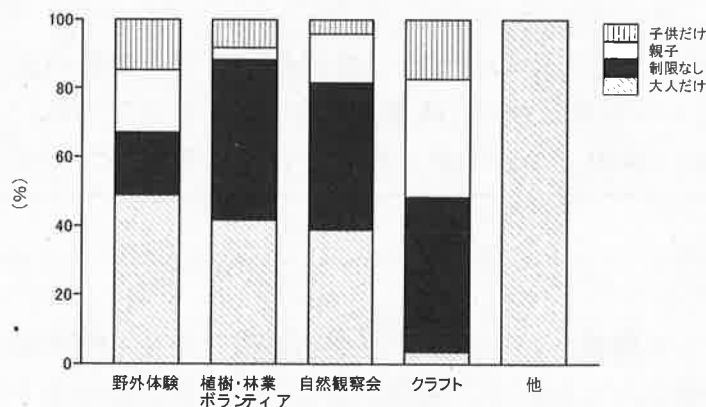


図 3. イベント別の対象者割合

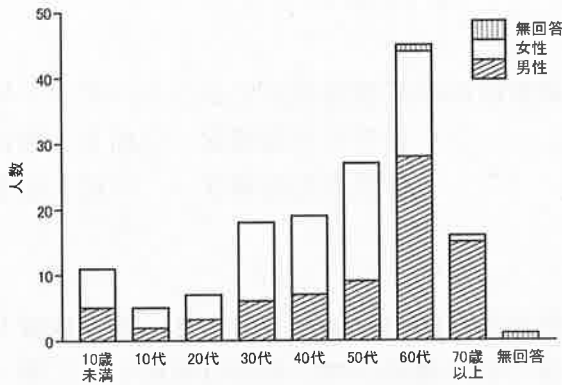


図 4. 参加者の性別と年代

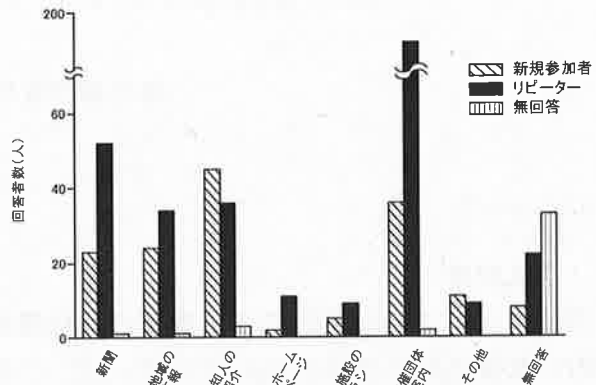


図 5. 新規参加者と複数回参加者の情報源

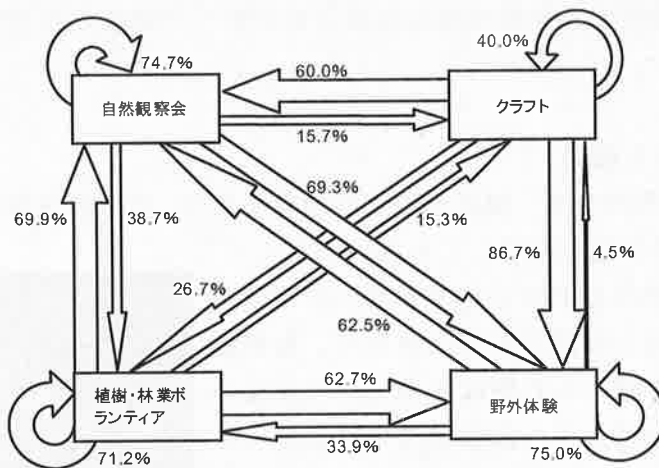


図 6. 参加者が今後参加したいイベント

参加イベントごとに、複数回答可で回答してもらった。イベントごとの参加者全体に対する回答割合を数字で示し、矢印の太さを反映させた。

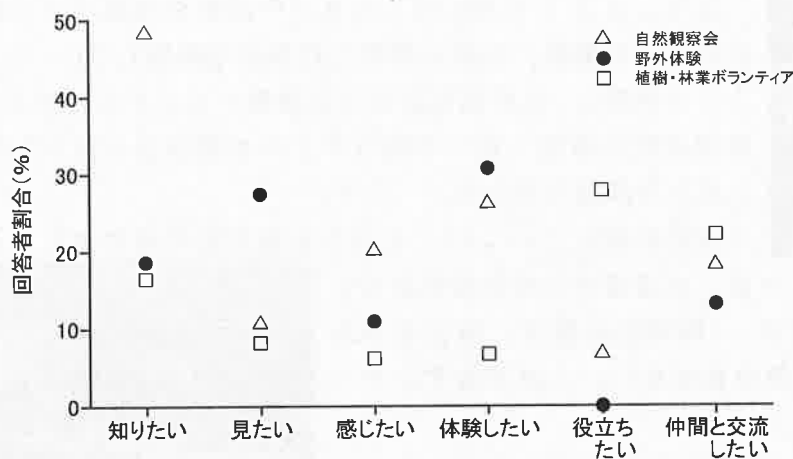


図 7. 参加者の期待

参加者がイベントに期待してきたことを記述し、参加イベント別に参加者の意図を 6 項目に分類した。

引用文献

[1] 秋田の森林づくり検討委員会(2008)「秋田の森林づくり検討委員会報告書」